

神奈川県立 生命の星・地球博物館  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

# 友の会通信

121  
2023.09

Vol.27 No.2 通巻121号 2023年9月15日発行(年4回発行)



特別展「かながわご当地菌類展」の様子

記録的な暑さが続く中、いかがお過ごしでしょうか。  
友の会も通常モードでの活動を再開していますが、しばらくお休みしていましたサロン・ド・小田原についてもこの度再開しました。  
年度後半も色々講座がありますので、ぜひご参加ください。

## 目次

博物館NOW	2
情報クリップ	2
活動報告	3
行事案内	10

# 博物館NOW

## 館長就任のご挨拶

館長 田中徳久

6月1日付けにて、博物館館長を拝命致しました。濱田隆士館長、青木淳一館長、斎藤靖二館長、平田大二館長に続く5代目の館長となります。館長に就任し、早3ヶ月となりますが、まだまだ館長の「仕事」が掴み切れていない不安ばかりの毎日です。



さて、当館も1995年3月に開館し、28年目を迎えております。去る7月26日に800万人目の入館者をお迎えしました。しかし、博物館の利用者は展示の観覧に来ていただいた入館者だけではありませんし、その仕事も展示だけではありません。当館では、博物館の仕事を、資料を集め、整理、保管し、未来に引き継ぐこと（集める）、集めた資料を調査・研究し、自然誌科学的な知見、あるいは博物館学的な知見を得ること（調べる）、その成果を展示やさまざまな学習支援活動を通して、皆様に伝えること（伝える）の3つに整理しています。友の会の会員の方々やボランティアの皆様の活動は、博物館の側からは、この学習支援活動の一環に位置付けており、双方向での活動として、たいへんありがたく、大事にしていきたい活動となっています。

ただ、ここ数年の新型コロナウイルスの蔓延とその感染拡大防止の日々の中、会員の方々の生活や活動も大きな影響を受けたことと思いますが、博物館も臨時休館や入館者数を制限するための予約制の運用、職員の出張の自粛やリモート会議の導入など、厳しい対応の日々でした。しかし、この5月に感染症法上の位置づけが変わり、ウイルスがすべて消え去ったわけではないものの、本格的なwith コロナ、after コロナの時代となりました。

また、令和4年4月に博物館法が改正され（令和5年4月施行）、文化芸術基本法の精神に基づくことのほか、デジタル化への対応、さまざまな主体との連携・協力、地域における教育・学術及び文化の振興、文化観光の推進など、従来の活動にオーバーラップす

る部分もありつつも、新たな活動の視点が盛り込まれています。

とは言え、当館は、なお一層、「集める」「調べる」「伝える」の博物館の基本的活動を充実させ、10年先、20年先、50年先へと活動を続けて行きます。友の会のみなさまも、そんな博物館の活動に寄り添い、応援いただき、ともに歩んでいただければと思いますので、よろしくお願いします。

## 情報クリップ

友の会会員数：354名（8月1日現在）  
正会員：351名／賛助会員：3名

### ●特別展「かながわご当地菌類展」のご案内



開催期間：2023年7月15日（土）～  
11月5日（日）

休館日：9月4日（月）・11日（月）・12日（火）・19日（火）・  
25日（月）・10月2日（月）・10日（火）・11日（水）・  
16日（月）・23日（月）・30日（月）

きのこ、カビなどの菌類は、身近でありながら謎に満ちた存在です。本特別展では、神奈川県やその周辺から新種発表された菌類のほか、絶滅のおそれのあるレアな菌類、県内でなじみ深いきのこなど、これまでの研究の成果から、かながわらしい「ご当地菌類」を多数ご紹介します。展示のラストには、「みんなで選ぼう！かながわご当地菌類投票」コーナーもありますのでお楽しみに！

## 活動報告（里山むしてくクラブ）

### ◆昆虫観察会「春の里山みんなで虫みつけよう」

2023年5月9日（火）／小田原市久野／講師：  
渡辺恭平学芸員／10名（スタッフを含む）／里山  
むしてくクラブ

前日とは打って変わった五月晴れの観察会。風が少し強めですが気持ちの良い虫日和となりました。ヨモギの食痕はクスイカミキリの付けたものとの説明を受け、エビヅルからはブドウハマキチョッキリが。久しぶりの再会です。ヒメコオロギバチはコオロギの幼虫を探して地面を歩き回っていました。虫たちの本能には驚かされるばかりです。



ヒトオビアラゲカミキリ

カミキリムシにはあまり気を付けることのなかった私ですがヒトオビアラゲカミキリには興味がわきました。後腿節が太く黒い帯がとても目立つのです。大きいものではないのに存在感がありました。

渡辺学芸員の振る黄色の網が鮮やかに舞います。クロスジギンヤンマを捕らえました。ブルーがとても美しいのですが、翅はボロボロでした。今年は季節が先走り、早くから活動したためだそうです。

ナヨクサフジが好きなシロスジヒゲナガハナバチが集めた花粉を横取りするダイミョウキマダラハナバチの説明があったのですが、昼食後そのシロスジヒゲナガハナバチの巣を渡辺学芸員がを見つけ、巣の中に「入った」「出た」と見守っていますとやって来たのはダイミョウキマダラハナバチです。段々巣

に近づき辺りを飛び回っては草に止まってじっと様子を伺います。巣の中に侵入する様子を見たかったのですが、時間がなく気になりながら歩き出しました。



様子を伺うダイミョウキマダラハナバチ



観察の様子

今回の観察会では109種の昆虫に出会えました。畑の多い場所での観察会。農薬も使うはずですから100種以上の虫が見られることは悪いことではないと思いますが、これ以上環境が悪くならないことを願うばかりです。（友の会 金子直子）

活動報告（植物観察会）

◆「身近な植物観察入門」

2023年5月27日（土）／博物館周辺／10名（スタッフ含む）／担当：植物グループ

2023年度「植物観察入門講座」の第2回目の講座は6名（スタッフ込10名）の参加者があった。

博物館の植え込みに侵入している植物をまず観察した。風に種子（たね）が運ばれて芽吹いたシンテッポウユリやオニノゲシ、鳥の糞に混じって芽生えたクロガネモチ、ヘクソカズラなど十数種が見られる。この狭い植え込みの中で、生き残りを図ろうと、少しでも他の植物より高く背丈を伸ばし、日光を取り入れようとしている植物達の生き様を観察した。

空地には、茎の上部に雌花をつけたカラムシの花を観察した。また、カラムシの葉は互生であるが、同じ属のヤブマオやメヤブマオは対生で、葉のつき方でカラムシは他と区別できることを話した。



ミツマタ（ジンチョウゲ科）の果実

山神神社の境内では、木に絡みついているテイカカズラが満開、白い花をつけ、神社を出た所にミツマタが果実をつけていた。若い果実で淡緑色をしているが、図鑑によると熟してもこのままの色の様だ。



ヒナギキョウ（キキョウ科）

また、北米原産のヒナキキョウソウが生えていた。同じ北米原産の帰化植物のキキョウソウは葉腋に段々に花を付けるが、ヒナキキョウソウは頂部に1個の花しかつけない。キキョウソウと同じように、果実（蒴果）は円頭形で横に穴があき、この穴から種子をばらまく。他に見られない姿である。帰りの人家の庭に見事に咲くイワガラミの花を見て観察会は終了した。（植物グループ 山田隆彦）



カラムシ（イラクサ科）

◆「芦ノ湖西岸の新緑を楽しむーコアジサイの道」

2023年6月6日(火)／箱根町白浜から芦ノ湖西岸／スタッフ含めて17名／講師：田中徳久学芸員／担当：植物グループ

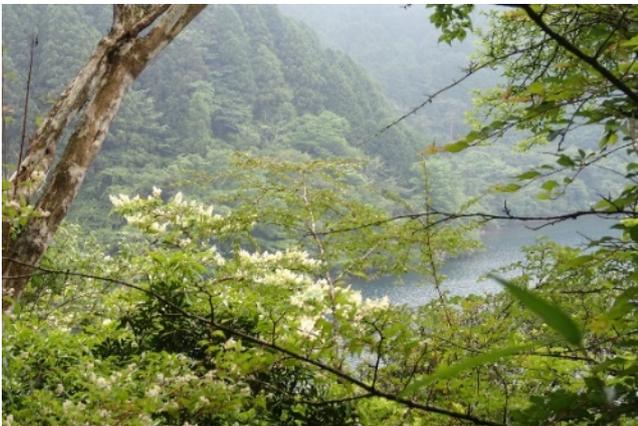
以前から行きたいと思っていた芦ノ湖西岸への観察会。周囲の山々に低く雲が垂れ込め、天気予報では3時頃に雨の予想の中、白浜地区湖畔を往復した。

スタート場所の白浜トイレ前で幹事の挨拶が終わるや、早速近くの木陰でウシミツバ、ヒメウワバミソウを見る、これらは箱根には多いらしい。ウワバミソウ類は雄花と雌花では花のつき方が異なるなど特長・見分け方などを教えてもらいながら進む。



コアジサイ

コアジサイは今回のコースを通して咲いていて、まさに今日の花形だ。装飾花の無い分、この静かな湖畔に似合っているように思える。進むにつれヤマツツジ、ニシキウツギ、ヤマボウシ、タンナサワフタギの花が現れる。タンナは日本の丹那だと思っていたら韓国の耽羅(タンラ)がなまったそうだ。



タンナサワフタギと湖面

途中3グループ位に分かれて観察しながら進み、サルトリイバラ、ムラサキシキブ、ガマズミなどを見る。特にこれらはふだん目にする葉より小さい。サルトリイバラなどこれではとてもお餅が包めない。昼食後田中先生より、植物が小さくなる要因についてお話があり、細胞の数、動物の食害、火山性土壌等あるとのこととまさにタイムリーな解説を頂いた。

道々キイチゴの黄色い実があり、美味しそうと思いながら歩く。ミヤマウコギ、コバノカモメヅル、ヤマジオウ、ハンショウヅル、ホソバテンナンショウ、フタリシズカ、アケボノソウ、コチャルメルソウ、花をつけたランヨウアオイ、ハコネイトスゲなどを見、カタバミ類ではカントウミヤマカタバミ、エゾタチカタバミの特徴を教えてください。



ランヨウアオイ

シダ類もヤマイヌワラビ、サイゴクイノデ、イノデモドキ、ヤワラシダ、胞子葉の目立つシシガシラなどを観察。

ミソサザイ、シジュウカラやホトトギスがよく鳴いていたが姿は見えませんでした。

戻り路では前半見落としたクモキリソウなどを探しながら出発地に戻った。

幹事の方々、田中先生、周りでいろいろ教えてくださいましたの方々に感謝の次第である。(西山和男)

◆「身近な植物観察入門」

2023年6月24日（土）／博物館周辺／11名／

担当：植物グループ

梅雨の中休みの一日。博物館から望む山肌もすっかり緑濃くなっています。小田原、秦野、伊勢原、大磯、東京から参加された皆さんと、和やかに身近な植物を楽しみました。

今日の注目種のあれこれです。

\* センリョウの花



この時期に咲くのですね。究極の簡単な花のつくり。雌しべの丸い子房の横に雄しべがちよこんとくっ付いているだけの花で、びっくり。

\* ネムノキの花



ネムノキの大木の下に沢山花が落ちていました。拾って、1個の花はどれかな？から始めて、遠目にも目立つピンクの雄しべ、ひょろっと伸びた白い雌しべなど、皆で観察。ほのかに良い香りもしていました。

\* ヒメコウゾの実



イガイガして見た目ほど美味しくないと言われているヒメコウゾの実ですが、熟しきった実は結構甘くざらついた食感も無かったようです。でも、中には「私のはダメだった」とつぶやく人も。

\* タシロラン



行きは22個の目があったのに、見過ごしていました。帰りにお一人が、6~7本の丁度見ごろのタシロランを見つけてくれました。ひと時、写真撮影で盛り上がりました。

ひと時より、花は少なくなったこの時期ですが、木々の若い実がかわいらしく、日影になった山道ではたくさんのシダを目にして、見分けのポイントなど学ぶことができました。

半日の観察会ですが、大満足して帰ってきました。（田畑節子）

## 活動報告（地学グループ）

### ◆地学 G 地質観察会「鋸山の地質・石材」

2023年6月10日（土）／千葉県富津市鋸山周辺／  
20名、講師・スタッフ等5名／田口学芸員・山下学芸員（当館学芸員）、丹治雄一学芸員（県立歴史博物館）

私は2022年度生命の星・地球博物館の講座「かながわの地形地質観察会（4）三浦半島」に参加して、石切場に魅了された。今回は地球博物館と歴史博物館の先生のコラボ企画ということで、友の会に入会し小学5年生の娘と親子で参加した。

久里浜港から東京湾フェリーに乗り金谷港に到着し、8分ほど歩くとJR浜金谷駅に着いた。10分ほど歩くとロープウェイ乗り場があり、所要時間4分ほどで327mの山頂に到着。山頂には展望台と資料館があり田口先生から地層について、丹治先生から当時の道具などについて説明を受けた。その後日本寺に行った。今回は地獄のぞきと百尺観音、石切場、車力道を通るルートだ。

### ◆地獄のぞき

地獄のぞきの場所へは階段がなく、3mほどの岩にかけられた手すりを使って登る。小学生はアスレチックのように、軽々登り降りできるが、大人は手すりが必須だ。のぞいて見える眺めが怖いというより、その場に立つ事が怖い。

その付近には大きな岩があり、千葉の南北を見渡せる場所があった。田口先生のお話では、鋸山は舟形の地層となっていて、南北にUの字のように地層ができていそう。まるで船の上にいるような気分だ。



（絵）百尺観音

### ◆百尺観音

地獄覗きを後に下山すると石切場に出

た。左右に100mほどの石を切り出した跡があり、谷間を抜けると先ほど地獄除きから見えた地面に出た。10mほど歩くと右側に百尺観音があった。私は製作に6年を要した観音の大きさに圧倒され、声が出なかった。

### ◆石切り場



安全第一の文字と地層の傾き

百尺観音を後にしばらく山道を歩くと、安全第一と彫られた石切場に出た。掘り出した跡がよく分かり、文字の上部は手掘りで下部が機械で掘られた跡が確認できた。文字の下部分の地層は、南に傾いていた。

### ◆車力道

切り出された石は一本約80kg3本を1組にし、当時女性が「ねこ」と呼ばれる台車に積んで山から降ろした。その道は車力道と呼ばれ、一日3往復したそう。私たちは前日の雨で濡れて滑りそうな石の道を注意しながら、当時の様子も思いつつ下山した。

千葉の鋸山の観察会は神奈川を飛び出して、自然科学と人文科学の側面から学校では教えられない生きた授業を受けました。先生方と友の会幹事の皆様、安全面も考慮して楽しい観察会を企画していただきありがとうございます。

（文 平澤恭子、絵 平澤七帆）



皆で記念撮影

の地層模型を駆使して説明して頂きました。聞いている時は、分かり安かったのですが、専門の知識がないと、ついていけないところもありました。なので、説明に使われたパワポの画面をいくつか提示させていただきます。



火山用語の説明

◆地学 G 地話懇話会「南足柄市矢倉沢 黒白林道付近の地質」

2023年6月21日(水) / 博物館西側講義室 / 16名、講師・スタッフ等5名 / 中村俊文氏(当館外来研究員)

「黒白林道」と言う少し変わったネーミングにはこの地の地層を形成した岩石に由来するようでした。たくさんの研究事例を見せて頂き、「行ってみたいですね!」と思ったのは私だけではなかったことと思いました。興味深いお話ありがとうございました。(飯島俊幸)



桜島を背景に標本を提示して説明する中村俊文氏



黒白断層面の写真

今回の講師は鹿児島大学で地学を学び、神奈川県足柄上郡で長年、中学校理科の教師をされた先生です。現役時代から神奈川県西部地域をフィールドとして現地調査を続けてきました。この度その最新研究を紹介して頂きました。

演題は『黒白林道付近の地質』でした。これで、何と読むかという、「こくびやくりんどう」と読みます。ちょっと読めないです。どこにあるかという、数年前に開通した「はこね金太郎ライン」の南足柄市地蔵堂付近のラインへの入口近くにあります。ここの露頭から読み取れる火山活動は変化に富んでいて、いろいろな事例を現物標本や記録写真、手作り段ボール



## 活動報告（よろずスタジオ）

## ◆「虫のさがし方」

2023年6月25日（日）／博物館講義室／46人（大人25人、子ども21人）／渡辺学芸員／スタッフ：友の会2人、小田原短大5人

コロナウイルス感染安全策のしぼりが解けた今回は、参加者の動線が交わらないようにと考慮した家族別テーブルにはせず、コロナ以前のように、ミニ解説を聞く場所、標本展示場所、図鑑等展示場所、パズル場所で配置し、参加者は3列に並んだ机に向いて座り、学芸員のミニトーク（導入）を聞いて頂くことでプログラムを始めました。



セミ取りの極意伝授

セミやトンボの捕まえ方は、虫の性質を知ることの大切さが説かれ、その上で網さばきが披露されました。自分の手の長さを知って、網の届く範囲を理解し、その範囲に虫が入ってくるまでは、「我慢の子」という教えに、多くの参加者がうなずいておられました。虫の大きさや、住んでいる環境に応じて、様々な網や道具があるのを見せてもらってミニトークは10分で終了。渡辺学芸員ご自身の子供時代からの経験に基づく昆虫との交わりのノウハウは、説得力があります。プロの使う道具を実際に手に取って具合を確認して、納得する子供たちの姿は、ワークショップならではと思いました。

その後は、神奈川県で見られる虫の標本を観察したり、ずらりと並んだ図鑑のアレコレを手にとってページをめくり、別に設えられた机で、チョウやセミなど虫たちのパズルを楽しむ内容です。4回同じことを話す学芸員さんは大変ですが、昆虫への興味を引き出す良いプログラムと思われました。



標本で解説

今回は小田原短大保育科の学生さん5人が助っ人に来てくださったので、終了後、スタッフ参加の感想を聞かせて頂きました。こういう会は「自然に興味を持つ家族を作る効果があるか」との質問に、皆さんが「Yes」と答えてくださって、元気をもらいました。学生さん各々も、「興味のなかった昆虫だが、今回の参加で興味を持ったので、この芽を膨らませて置き、保育の仕事に関わる中でも、子供達の興味を受け入れて育ててゆきたい」との感想が寄せられました。



パズルはいつも大人気

渡辺学芸員と友の会スタッフは「少なくとも助っ人の学生さんに5粒の種は蒔けたのでは」と嬉しい気持ちになりました。これをきっかけに若い方々が、博物館を身近に感じ、生涯学習の場所として、活用して下さるよう願ってやみません。（よろずスタジオまとめ係：赤堀千里）

# 行事案内

## ◆ 植物観察会『身近な植物観察入門』

博物館周辺を歩き身近な植物を観察します。初心者中心の楽しい会です。会員以外の方も大歓迎です。

日時：10月28日(土)・11月25日(土)  
(連続して出る必要はありません)

集合：博物館正面 前庭 10時

解散：同所 12時頃

参加費：50円(保険料)

講師：友の会植物グループ

対象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴でお願いします  
持ち物：飲み物・雨具など  
(ご準備できようでしたら虫メガネ・ルーペ等の拡大鏡)

申込み先：[shokubutsuG@gmail.com](mailto:shokubutsuG@gmail.com)

下記期間内に、件名を「〇月〇日観察会申込み」として、本文に氏名、住所、電話番号、メールアドレスを記入してください。メールアドレスの無い方は、電話でお申し込みください。

申し込み期間	
・メールでの申し込み	
10月28日観察会	10/23(月)～10/27(金)
11月25日観察会	11/20(月)～11/24(金)
・電話での申し込み(19時～21時)	
10月28日観察会	10/26(木)・10/27(金)
申込・問合せ：佐々木あ	(080-5686-6762)
11月25日観察会	11/23(木)・11/24(金)
申込・問合せ：松井	(090-7411-5024)

(博物館には問い合わせないでください)

## ◆ 生物間共生講座XI 『昆虫の大発生を防ぐ菌類と助ける菌類』

日時：11月11日(土) 10:30～14:30

状況が許せば講演会後、茶話会を催します。  
場所：博物館1階講義室(東西両側)  
講演者：鎌田直人氏 東京大学千葉演習林長・教授  
申し込み：往復はがき又はメールで必要事項を記して友の会事務局へ。メールは題を「11月11日共生

講演会申し込み」として下さい  
アドレス：[c.akahori@gmail.com](mailto:c.akahori@gmail.com)  
締め切り：10月27日(金) 必着  
参加費：1,100円/人(会員以外1,500円)  
対象：オープン、中学生以上、  
連絡先：080-1088-9269(菌事勉強会：赤堀)

地球上のすべての種は、多くの種と関係をもちながら生活していますが、菌類の中には昆虫と密接な相互作用をもっているものが多く知られています。今回は、昆虫の数を制御する例を2つ紹介します。

ひとつは昆虫の病気として、ブナ林で大発生するブナアオシャチホコという葉食性の蛾の仲間の大発生をコントロールするサナギタケという冬虫夏草です。ブナアオシャチホコは、およそ10年に1度大発生して、広範囲のブナの葉を食い尽くしてしまうことが知られています。大発生すると、さまざまな天敵が働きますが、サナギタケを主とした昆虫病原性糸状菌類は、高い死亡率を引き起こして大発生を終息させるだけでなく、ブナアオシャチホコの10年周期の密度変動そのものを作り出しています。



図1:ブナアオシャチホコによって带状に食害されたブナ林とブナアオシャチホコの終齢幼虫(右上)、ブナアオシャチホコの蛹から発生したサナギタケの子実体(右下)  
(伊藤進一郎博士撮影)

もうひとつは、ナラ枯れの病原菌である通称「ナラ菌」とよばれる菌です。ナラ菌はカシノナガキクイムシという甲虫に運ばれて木の中に侵入すると、ナラ類の材の細胞を殺して、萎凋症状を引き起こして枯らしてしまいます。カシノナガキクイムシは、「クイムシ」とはよばれながらも、木を食べているのではなく、共生菌を運搬・培養して食べる「菌くい虫」ですが、通常は衰弱したり風で倒れたりした木や折れた太枝に寄生しま

す。「ナラ菌」はカシノナガキクイムシの餌ではありませんが、木を衰弱・枯死させることでカシノナガキクイムシと、お互いの繁栄を助け合う共生関係をもっています。(鎌田)

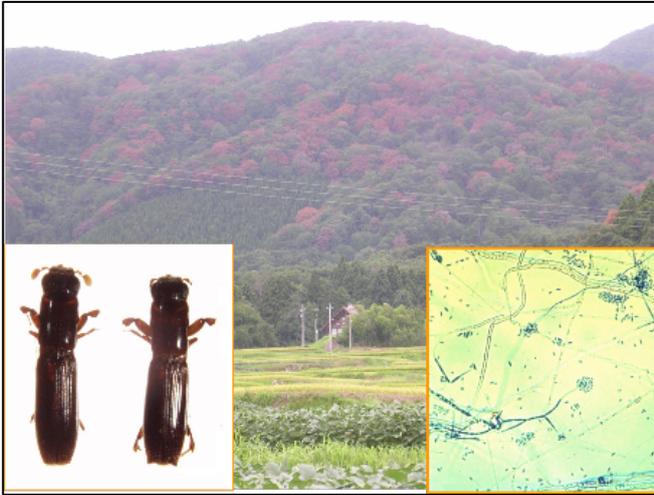


図2：ナラ枯れで枯れたミズナラとカシノナガキクイムシ（左下）、ナラ菌（右下）  
(伊藤進一郎博士撮影)

### ◆ よろずスタジオ 「葉っぱであそぼう」

赤や黄色や緑の葉っぱ、長いのが丸い葉っぱ、小さかったり、大きかったり。  
11月は葉っぱに注目！切ったり、貼ったり、自分だけの葉っぱの作品を作って、葉っぱと友達になりましょう。

対象：子ども（当日の来館者）  
申込み：不要／オープン  
参加費：無料  
場所：博物館1階講義室（東側）  
日時：11月19日（日） 13:00～15:00



昨年のよろずスタジオ「葉っぱで遊ぼう」

### ◆ 植物観察会

#### 「晩秋の里山を歩こうー八王子市長沼公園」

長沼公園は、京王線・長沼駅から南へ徒歩5分の所にあり、広い面積の雑木林が残されている自然豊かな都立公園です。

アオハダの黄葉やコバノガマズミの赤い実が美しい季節です。高低差100メートルをゆっくり登り降りしながら、植物観察します。深まりゆく秋の一日を楽しみましょう。

実施日：11月28日（火） 雨天中止

場所：八王子市 長沼公園

集合：京王線長沼駅改札 10:00

解散：京王線長沼駅 14:30頃

講師：田中徳久学芸員

対象：大人15名（応募者多数の場合抽選）

参加費：500円

申込み：11月8日～14日の間に、件名を「11月28日観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、電話、年齢、会員番号、メールアドレスを記入して、下記アドレス宛てのメールで申し込んでください。

[shokubutsuG@gmail.com](mailto:shokubutsuG@gmail.com)

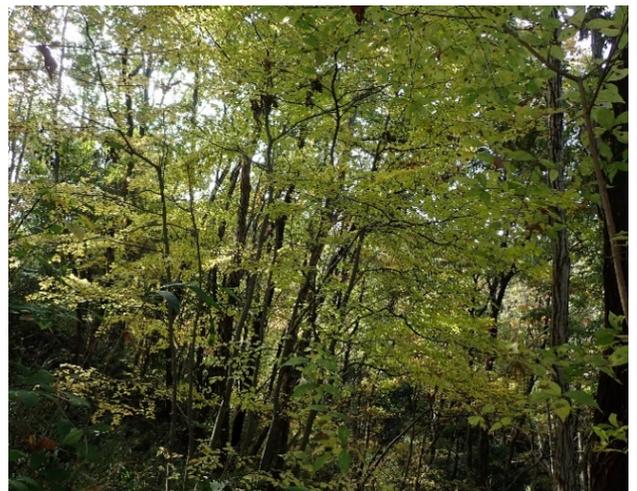
メールアドレスの無い方は11月12日～14日の19:00～21:00の間に電話で申し込んでください。

電話申込み先：浅川 090-6538-6843

当日の連絡：浅川（同上）

田畑 080-5645-7987

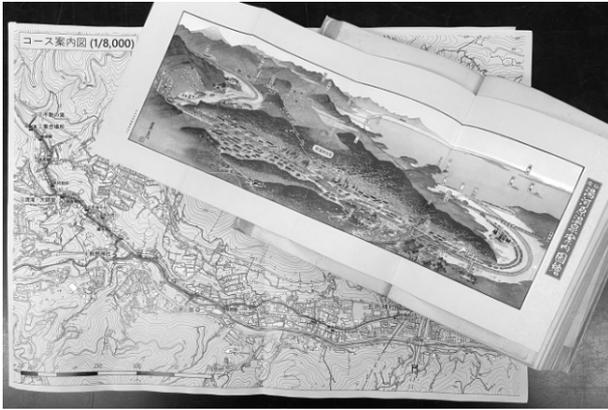
\*詳細はメールでお知らせします。



アオハダの黄葉

◆ 地質観察会「鳥瞰図で歩く湯河原」

日時：12月17日(日)10:00~16:00  
場所：湯河原町(不動滝から湯河原駅まで歩きます)  
講師：新井田秀一学芸員  
対象：友の会会員  
備考：詳細はチラシにて



鳥瞰図とコース案内図



前回の様子

訂正のお知らせ

◆植物観察会 「里山の秋植物」  
通信120号の記載に間違いがありました。  
ご参加の皆様はお気を付けてください。

(誤) 2023年10月13日 (土)  
(正) 2023年10月13日 (金)

問い合わせ：佐々木シ 090-6518-7296

友の会主催行事の参加申し込みについて

- ◆行事案内に申し込み方法が指定されていない場合  
往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局  
までお送りください。
- 必事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・  
年齢(学年)／会員番号／代表者の住所・電話  
番号／指定事項
- ◆行事案内に申し込み方法が指定されている場合は  
指定された方法(メール・電話等)にてお申し  
込みください

注意!

- 参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資  
料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記  
事項に記載があります。バスなど予約が必要な  
場合、参加者個々に材料を購入する場合などの  
講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方を  
ご紹介いただくか、参加費を負担していただく  
場合があります。
- オープン行事は会員以外の方も参加できます  
(参加費が会員とは異なる場合があります)。
- 小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
- チラシの発行されない行事もありますので、  
直接<連絡先>へお問い合わせください。
- 持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

—広報部より—

2018年度から通信の編集作業は外注から  
広報担当者が行っています。編集作業や新  
規企画提案など通信作成のお手伝いをして  
いただくと非常に助かります。お手伝い  
いただける方は、下記メールアドレスにご連絡  
ください。よろしくお願いいたします!

次号は、2023年12月15日発行予定で

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会  
Vol.27、No.2、通巻121号 2023.9.15 発行  
編集：友の会広報部  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499  
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846  
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp  
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo  
Twitter：@kpmtomo